



令和元年度 学校だより

緑 柏

No. 175

長崎県立佐世保南高等学校

令和 2年 2月 29日発行

発行責任者 下 釜 祐 保

新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々、ご遺族の皆さまに謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている方々とそのご家族など、ご苦難に直面しておられる皆さまに心からお見舞い申し上げます。

また、各分野でこの困難に立ち向かわれている方々に深く敬意を表しますとともに、国内外を問わず、一日も早くこの事態が終息し、平穏な生活を取り戻せるようご祈念申し上げます。

校長室の窓から

ひとりの地球人として

校 長 下 釜 祐 保



■ 新型コロナウイルス

ひと月前とは、報道がずいぶん様変わりした。毎日、緊張感をもって注視している。新型コロナウイルスの報道のことだ。この話題なしに1日を過ごすことはできない日が続いている。人類は今まさに、国を超えて新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と闘っている。突然現れた、人類がはじめて遭遇するウイルス。当然専門家もいない。詳しく知識を有する人もいない。だからこそ、こういうときこそ「何が正しい情報なのか」、「どのような行動をとることが正しいのか」、一人ひとりの言動は慎重でありたい。

本校には、中国に姉妹校がある。平成19年に首都師範大附属中学と姉妹校締結を行った。正面玄関横の顕彰欄にその締結協定書がある。中国の報道が主であった頃、ある先生から「姉妹校に、せめてマスクを送れないだろうか」との相談があった。そのとき既に入手困難で、校訓『和敬禮節』の心を形にすることはできなかった。

一方、「受験生用に」と、そのマスクを寄付してくださった方がおられた。この状況で…。何とお礼を申せばいいのか相応の言葉が浮かばない。「本当にありがとうございます」。

■ SDGs (エスディーゼズ : Sustainable Development Goals)



外務省のHPに「持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル (普遍的) なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます」との説明がある。

昨秋のユネスコスクール全国大会でもSDGsのムーブメントを感じた。教育的要素の深さ・多さを感じる。

■ 東京オリンピック・パラリンピック

“近代オリンピックの父” と呼ばれるクーベルタンが唱えたオリンピズム (オリンピックの精神) は「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献すること」である。この理想は今も変わらず受け継がれている。彼が考案した、五輪のシンボル・マークが世界五大陸の団結を表していることは有名だ。

そのオリンピックが今夏、東京を主会場に開催される。平和でよりよい世界のために。

「宇宙から見たら地球に国境線はなかった」と言った宇宙飛行士がいた。誰だったか覚えていないが、正しくレベル違いの高所大所からの視点でなければ言えない名言だ。新型コロナウイルス対応も、SDGsも、オリ・パラも「地球規模の視野をもち、国際目標を理解し、地球人としての考察・行動、実践を」と示唆している。

明日は72回生の卒業式。見知らぬ土地へ生活の拠点を移す者も多いが、ひとりの地球人として生き、本校で研鑽し蓄えた力を発揮してほしい。

どうぞ壮健にて、幸多き人生を。

生徒会 常任委員長改選

南高生一人ひとりの個性が光るような
取り組みをしていきたい。

2月12日（水）に新常任委員長を決める立会演説会及び選挙が行われました。

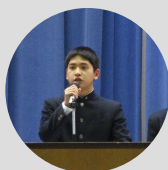
1年生から、松本遥々香さん、長井響一くんの2名が立候補しました。

立会演説会では、それぞれがこれからの南高の在り方や方向性について、「各フロアへの目安箱の設置」「南高生一人ひとりの個性を生かす取り組み」など自分自身の考えを述べました。

そして投票の結果、1年1組 長井響一くんが次期常任委員長に選出されました。生徒会は4月に始動します。佐世保南高校生徒会として様々な取り組みを行い、この学校をさらに良いものにしていくよう期待しています。



新常任委員長改選にて全校生徒に演説を行う1年1組 長井くん（左）と1年2組 松本さん（右）。



当選にあたり 所信表明

日本は令和の時代を迎え、東京では今年、オリンピックが開催されることとなっています。海外からの訪問者も増加し、それに伴いこれまでと違った価値観が日本には根づきつつあります。そんな新たな時代を迎えつつある今、僕たちの社会はいろいろな価値観をお互いに認めつつ、共存できるような「多様性と共存」の時代であるべきです。ここ佐世保南高校にも、たくさんの地域から集まったたくさんの人がいます。私は、南高の常任委員長として、私たち生徒の個性が輝き、それをお互いに尊敬し合えるような学校づくりを目指します。多様性を伴った組織作りにおいては、いろんな声、様々な意見に耳を傾けなければなりません。私は、皆さんの意見を聞く機会を増やし、それを積極的に学校へ反映させていきたいと考えています。そのためには、まず生徒の皆さんの声が必要です。私は皆さんと一緒に、より良い学校を作っていく所存です。どうぞ協力お願いします。

育友会による応援うどん差し入れ

令和元年度佐世保南高校マラソン大会に際して、毎年恒例の育友会によるうどん提供がありました。残念ながら、天候不良によりマラソン大会は実施できませんでしたが、保護者の方々の愛情いっぱいのおうどんを生徒、教員みんなでおいしく頂きました。中には何度もおかわりをした生徒もいたようです。

保護者の方々の思いを力に変えて、残り少なかった令和元年度を元気に過ごして欲しいと思います。ありがとうございました。

育友会の方々が差し入れてくださった応援うどん



マラソン大会は実施出来なかったがおいしそうに食べる本校生徒の様子。

県新人戦バレーボール男子優勝



大村工業に **2 — 1**
九州大会 ベスト **8**

大会結果詳細

県新人戦

準決勝：対 長崎南山	決勝：対 大村工業
25-18	25-23
25-22	15-25
	25-20

九州新人戦

【予選リーグ】

対 佐賀工 (佐賀県)
25-12, 25-13 2-0で勝利
対 小林秀峰 (宮崎県)
25-6, 25-15 2-0で勝利
対 西原 (沖縄県)
25-15, 25-20 2-0で勝利

【決勝リーグ】

準々決勝
対 東福岡 (福岡県)
18-25, 22-25 0-2

令和2年1月25～27日、島原復興アリーナ、島原市霊岳公園体育館、島原工業にて行われた令和元年度長崎県新人戦にて男子バレーボール部が大村工業を2―1で破り、優勝を果たしました。県新人戦における優勝は11年ぶりとなります。保護者の皆様、地域の皆様の暖かいご声援ありがとうございました。

県新人戦バスケットボール女子 令和元年度長崎県新人戦 準優勝

部活動結果の詳細は以下



令和2年1月25日～1月27日、本校体育館も会場となった令和元年度長崎県新人戦において女子バスケットボール部が準優勝を修めました。試合会場での暖かいご声援本当にありがとうございました。

大会結果詳細

準決勝	決勝
対 長崎商	対 長崎女子
77－75で勝利	71－76



決勝戦（対 長崎女子）の様子

緑柏のバックナンバーはコチラ
にて掲載しております。



次学年に向けて ～学年主任からのメッセージ



1学年主任
本山 菜美子 先生

「ゼロ学期」—こんな言い回しをご存じだろうか？ 多くは中高2年生の三学期のことを「3年ゼロ学期」と称して、「春から受験勉強すればいいか!」という「後回し精神」を戒める為に用いるようだ。さあ1年生諸君も「春から頑張ろう」などと悠長な考えは捨て今すぐスタートしようではないか、「2年ゼロ学期」を!

まずは理想の2年生像を思い浮かべてみよう...学校を牽引する学年...学習に行事に部活動、そして生徒会活動に...どこを切り取っても全力投球...そして、いつも忘れない思いやりの心。

「剛」と「柔」。そう、それが南高生の伝統だ。南高生は強い。その強さは他を思う心(友情、感謝)に裏打ちされている。孔子はこう言った。「仁者の勇はなめした皮のようにしなやかで強い。だから人々が協力する。」2年ゼロ学期に、努力、継続、挑戦の種を蒔こう。思いやりと感謝の心をもって。花が咲くまで支えてくれる仲間がさらに増えるはずだ。しなやかな強さを携えて、共に前進しよう。



2学年主
東 彦一郎 先生

最終学年になる時も約2ヶ月後に迫ってきました。部活動生の皆さんは最後の高総体や甲子園予選、コンクールまで約4ヶ月や半年程です。また、自らの進路を決定するまで1年を切りました。どちらも自らを信じた「勝負」です。後悔のないよう、毎日を大切に全力で、部活動と勉強に取り組ましましょう。両方をきちんと頑張ることが、部活動にも生きてくるはずです。なぜならば、好きな部活動を一生懸命に頑張るのは当たり前です。勝負というのは決して楽ではありません。高総体や甲子園予選、コンクールは特にそうでしょう。実力が拮抗している場面で勝負を決めるのは、どんな状況でも焦らず慌てない「自信」です。好きなことだけ頑張る人が、非常に緊張した大事な場面で自分を信じてプレーできるのでしょうか？ 惜しいプレーはできても、勝負を決めるプレーはできないと思います。「やるべきことをやるべき時に、最後までやりきること」が鍵を握っています。進路実現も、約1年後に後悔しないために、この時期に地道に頑張りましょう。

高文連表彰受賞!

しおかぜ祭の成功に尽力

本校二年生の柿原千尋さんが、令和元年度長崎県高等学校文化連盟の表彰を受けました。柿原千尋さんは11月8日に開催された令和元年度長崎県総合文化祭(しおかぜ祭)の成功に尽力しました。

3月の主な予定

- 1日(日) 第72回卒業式
- 2日(月) スタディサポート(1年)
Sプロ(2・3年)
- 7日(土) Sプロ(1・2年)
- 9日(月) 高校入試会場設営(午前)
- 10日(火) ~ 11日(木)
高校入試
- 16日(月) 校内大会
教室移動(2年)
- 17日(火) 教室移動(1年)
- 18日(水) 消費者教育(1年)
- 20日(金) 春分の日
- 24日(火) 三学期終業式 離退任式



表彰を受ける本校二年生 柿原 千尋さん

3月は2日~24日まで臨時休校となります。